

由利本荘市 市民ワークショップのご報告

～市の総合計画って何？私にできることを考えてみよう～

由利本荘市では、令和7年度に、総合計画である「ゆりほん未来プラン」の策定を予定しています。計画では“目指す10年後のまちの姿”を掲げ、その実現に向けた“基本政策”、“推進分野”、“推進分野で目指す姿”と具体的な施策を記載し、市民、民間事業者、行政等が一丸となって取り組むものです。

「ゆりほん未来プラン」を市民の方に知っていただくとともに、みなさんの意見をできるだけ計画に反映するため、素案を示しながらワークショップを開催しました。

ワークショップでは、高校生や大学生、若手の市職員の参加が多く、積極的で、前向きな意見が多く聞かれました。以下に、開催概要を示します。

1. 実施概要

開催日：令和7年7月26日（土）14：00～16：00

開催場所：由利本荘市文化交流館 カダーレ

参加者：計23人（市内に通う高校生5人／本市近隣の大学に通う大学生6人／公募市民2人／市職員10人）

開催テーマ：まちの総合計画について知り、「自分にできること」を考えてみよう！



<ワークショップの流れ>

説明	市の「総合計画」とはどのような計画なのか、基本構想における「目指す10年後のまちの姿」の考え方、基本計画における「基本政策」-「推進分野」-「目指す姿」の構成、それを実現するための具体的な取組みについて説明しました。
ラウンド1	施策の分野の一覧を示し、「わたし（参加者）」が特に「関心がある分野」や「自分の暮らしに身近な分野」にシールを貼りました。 その後、その分野を選んだ理由を付箋に書き出し、説明しながら、ワークシートに貼り出しました。
ラウンド2	「わたし」が関心のある分野や、自分の暮らしに身近な分野について、「自分ができること」のアイデアを出して、ワークシートに貼り出しました。
発表	班で話し合った内容を参加者全員で共有するために、発表を行いました。

2. 主な意見（各班の発表より）

（１）Ａ班

- ・「地域共生政策」の②移住について、一番話が盛り上がりました。
- ・出来るだけ人を由利本荘市に呼び込みたい、暮らしを良くしていくということを考えた時に、市民生活の基盤となる部分を充実させていきたい、という意見がありました。
- ・由利本荘市の良さを知らない人もいると思うので、食べ物やキャンペーン、企業誘致を広めていけば由利本荘市に帰ってくるか、移住をしてくれるのではないかと思います。

（２）Ｂ班

- ・起業や雇用を増やすという話ではなく、どんな企業が県内にあるのか、どんな福利厚生があるのかを知らない人が多く、発信していくことも重要だと思います。
- ・小中学生だけでなく高校生にもしっかりと職場体験の機会を与えるのも重要だと思います。
- ・魅力を伝えるために、自分が由利本荘市をまず楽しむのが大事と考えました。ライドシェアや学校づくり、由利本荘市を後輩に勧めるなど、細かい積み重ねで由利本荘市を盛り上げていけたら良いと思います。
- ・過疎地区などで人が住まなくなった後のクマが心配。

（３）Ｃ班

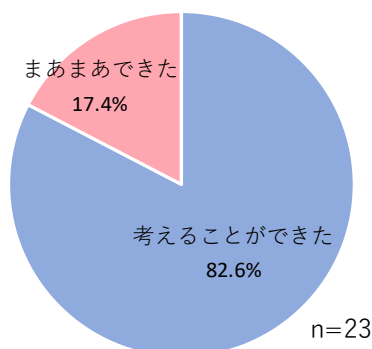
- ・高校生だけで、社会人向けのインターンシップを行うという意見が出ました。
- ・駅前の朝市やスポーツイベント、農業ボランティアなどを開催しみんなで参加する、ナイスアリーナで参加しやすいイベントを行うという意見も出ました。
- ・日本中に由利本荘市の観光名所や飲食店などを広めていくことが大事だと思います。

（４）Ｄ班

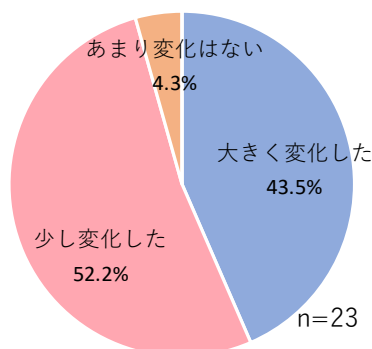
- ・産業政策、観光・交流政策、社会基盤・暮らし政策について盛り上がりました。
- ・秋田市に新卒が流れてしまうことについての関心が多くありました。
- ・スポーツ自体、触れ合いが多く、地域づくりにとって重要な側面があるのではないかと思います。
- ・災害時の情報伝達は重要なことという意見もありました。
- ・スポーツの参加などを通して交流が増え、地域全体のスポーツ・文化への関心が強くなっていくのではないかと思います。

3. 参加者アンケート（抜粋）

（１）総合計画について身近に感じ、由利本荘市の未来について考えることができましたか？



（２）ワークショップに参加する前と後で、まちづくりに対する考えに変化はありましたか？



（３）ワークショップで特に印象に残ったフレーズやアイデア、新たに気づいた点

- ・観光・地域プロモーションにおいて、そもそも市民が市のよさを知っていないのではという点が印象的である。まずは、地域の人が自分の住む場について知って貰うことが大切だと思った。
- ・「地元で働きたい！」と思ってくれている人がいて、そういう方々を大事にしていきたいと感じた。
- ・今ある魅力の発信、まだない魅力の創出という２面のアプローチ
- ・プロモーション会議の参加。市長への手紙等、自分の意見を市に届ける機会があることを知った。

（４）自由意見

- ・これから市を担っていく若者に向けた計画が多くあり自分からもできることはないのかを考えるようになった。市の施策を知る機会になったので、この先の生活でも気にかけていきたい。
- ・ワークショップで若者の意見を取り入れてもらう姿勢にありがたいと感じた。企画を続けてほしい。
- ・市職員として、微力ながら市のまちづくりにつながっていると実感し、やりがいを感じた。自分自身、市に永住したいと思っており、気づいたことがあったら積極的に意見を出していきたい。
- ・課題は多く、簡単に解決できるものではないが、今日のように市民がジブン事として考える機会の積み重ねが市を良い方向に動かす原動力になっていくと思う。
- ・新しい施設を作ったり、施策を立てること（目新しいこと）も必要であるが、今住んでいる人々が意見をブラッシュアップすることも大切だと感じた。＝”充実させる”という考え方。
- ・市について考えている若者が多くいるということは、市としての大きな財産だと思う。これから大切にしていける人材だと思う。こうした人たちが集って活動できる場所を創出していきたい。
- ・ワークショップをして、自分にできることが予想以上に多いと感じた。意見としてできることを今日からでもしていきたい。